

新総合体育館基本計画概要版



I 基本計画策定の背景・目的

現総合体育館は、昭和60年11月に空の科学館との複合施設として建設され、多くの市民に親しまれていますが、規模の不足や機能面での不便が指摘されるなど、市民・利用者や競技団体からのニーズを満たせていません。

このような状況を受け、市民や関係団体からの意見を基に、基本コンセプト、基本方針、施設規模の考え方、整備候補地を整理した「半田市新総合体育館基本構想」（以下、「基本構想」）を令和7年3月に策定しました。

本基本計画は、基本構想のコンセプトなどを基に、施設の運営方針や民間活力の導入、適切な施設機能の詳細や規模等を取りまとめることを目的とします。

II 整備場所の検討

基本構想において、新総合体育館の建設場所については【半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）敷地内】と決定し、半田運動公園内の既存施設や新総合体育館の想定規模等から、公園内の設置場所として「A」「B」「C」「D」の4箇所を設置候補地としました。

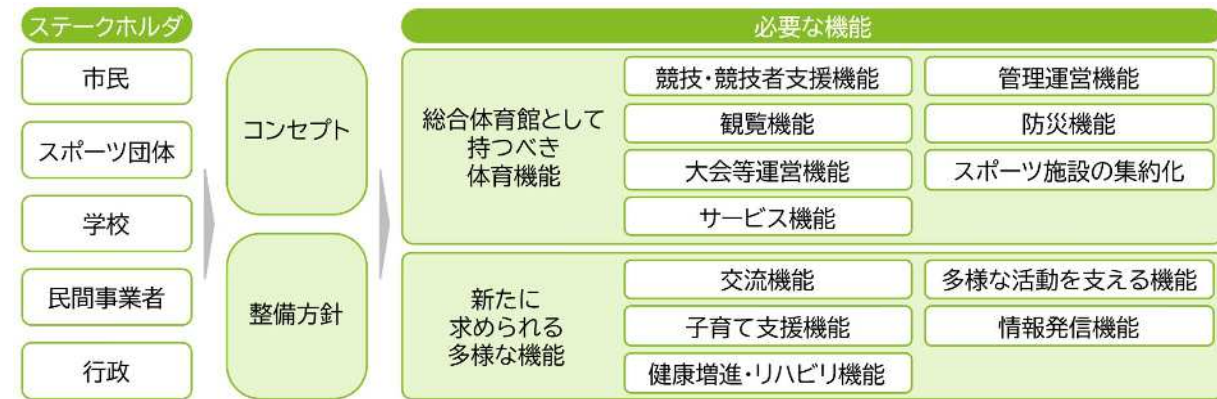
敷地条件や既存利用者への影響、公園既存施設との連携、駐車場との近接性、体育館整備以外に要する事業コストの4つ観点から考察した結果、整備場所を候補地「D」としました。



III 施設整備方針

昨年度実施したスポーツ団体等へのヒアリングや市民ワークショップの結果を踏まえ、コンセプトを具現化するために求められる施設機能として、以下の通り「総合体育館として持つべき体育機能」と「新たに求められる多様な機能」の二つの側面から整理しました。

また、スポーツの活動拠点として、半田祭をはじめとした大規模なスポーツイベントの開催が可能な機能、諸室、設備を確保するため、施設規模としては延床面積約9,000㎡を見込んでいます



IV 施設計画（施設配置計画）

新総合体育館の建築面積は約7,000㎡を想定します。

新総合体育館の整備により、運動公園への来訪者増加が想定されることや、現在の第2駐車場がなくなることなどを踏まえ、新総合体育館の東側の第1駐車場の区画整理を実施し、また、半田運動公園の正面ゲート付近に新たに駐車場を整備することで必要な駐車台数の確保を想定しています。



